

2006

【応募期間】 2006年8月22日～9月29日

【応募状況】 20校（県内13、県外7）、95件（137人）

【審査結果】

《グランプリ》

お風呂のふた

松永みゆき（大分県立臼杵商業高等学校3年）

《優秀賞》

焼酎粕のリサイクル

内布竜矢 ほか12名（熊本県立球磨工業高等学校3年）

《奨励賞》

ハンガー

佐藤えり（大分県立三重総合高等学校1年）

アウェイサポーター・ウェルカムプロジェクト

池永壮佑（大分東明高等学校3年）

《努力賞》

仮眠グッズ「ストレス」

石岡豪 ほか7名（大分県立日田三隈高等学校3年）

「すべってころんで、OH! 痛! 犬」ほかグッズ

貝掛柚香子（岩田高等学校1年）

どこでも、何にでも付けトッテ

林沙和（大分県立臼杵商業高等学校3年）

シャークキャンディ

梅田裕太（大分県立大分鶴崎高等学校1年）

全身エアータオル

西郷沙也加（大分県立情報科学高等学校1年）

目盛り付紙パック・ペットボトル飲料

谷川真里奈（兵庫県立神戸商業高等学校3年）



【審査講評（抜粋）】

グランプリの「お風呂のふた」は、ロールカーテンの応用と思われるが、開け閉めが誰にも簡単で、場所をとらず、使い勝手とメンテナンスのしやすさに配慮したアイデアである。優秀賞の「焼酎粕のリサイクル」は、全国の多くの蔵元が現在取り組み中であるが、高校生としての質の高さが評価された。奨励賞の「ハンガー」は洗濯物を干すときに日常的に使いたい一品である。同じく奨励賞の「アウェイサポーター・ウェルカムプロジェクト」はサッカー観戦後のサポーター同士の心の交流プランである。努力賞の6件は既存の製品の適用範囲を広げる応用力を感じさせる作品であった。

応募作は全体的に商品名の工夫が楽しく、また地域の特産品を活かした製品やサービスも多かった。また創造性や着眼点のユニークさ、他人への配慮という点において新鮮であった。